

10

“A” レポート及び “G” レポート（「ダグウェイ文書」）について

筋 昭三

社団法人石川勤労者医療協会 城北病院

「目的」：今回は731部隊で実施されたとされる炭疽菌（Aレポート）及び鼻疽菌感染実験（Gレポート）の内容と臓器別病理変化の記録を紹介する。

「結果」

1. 「ダグウェイ文書」とは、「ユタ州ダグウェイは、……アメリカ合衆国軍の化学・細菌戦の基地があり、日本の細菌戦研究の名残が収まっている。……広がる秘密の研究センターに、……細菌戦に関するあらゆる最新の化学系出版物を収集している専門図書館がある。……石井や北野、そして他の生き残った731部隊の幹部に対してアメリカの科学者たちが戦後に行なったインタビューをもとに、アメリカの科学者たちの手によってまとめられた20本以上のレポートが、……箱のなかにしまいこまれている。この箱には3本の並外れた解剖に関するレポートも収まっており、……研究テーマは馬鼻疽、ペスト、炭疽病をカバーしている。……一時はこれらのレポートはトップシークレットに指定されていたが、……1978年にトップシークレットの指定を解除された……」（シェルダン・H・ハリス）文書である。今回の発表は、この「ダグウェイ文書」の並外れた解剖に関するレポート「A報告」（炭疽菌実験）、「G報告」（馬鼻疽菌実験）の概要報告である。

2. 「A, G報告」等が作成された経緯と病理標本の由来

「フェル・レポート」は、「日本の細菌戦活動に関する新情報の要約」として、ノバート・H・フェルが1947年6月20日付でGHQの「化学戦部隊隊長」宛に提出した文章である。フェルが1947年4月、東京に来て731部隊関係者を調査した内容を記述したものであり、その冒頭に「細菌戦計画における重要人物のなかの19人が集まり、人間に対してなされた細菌戦活動について60頁の英文レポートをほぼ1ヶ月かけて作成した……」と記されている。1947年の4、5月頃に「731部隊」に関係していた医師たちを集めて、平房での実験の記録等を書かしたというのである。1947年10月15日の極東軍総司令官の命令で東京に来たエドウィン・ヒルとジョーセフ・ヴィクターの731部隊関係者の調査の報告文（1947年12月12日付け）が「ヒル・レポート」である。ここでも「細菌戦に関してハルビンまたは日本で研究した以下の人を尋問した」として、その中に「炭疽菌 太田澄」、「鼻疽菌 石井四郎、石川太刀雄」と記されている。そして、「金沢の病理標本は、ハルビンから石川太刀雄によって1943年に持ってこられた。それは約500の人間の事例からの標本から成っている。そのうち400だけが研究に適した標本である。……」 「馬鼻疽 適切な標本20 合計22」と報告されている。

3. 「A及びG報告」での研究対象（生体）と実験計画

A報告の感染実験は、経皮感染症例1例、経口感染9例、経鼻感染20例、合計30例（その他に囚人部屋で炭疽菌汚染事件が発生し死亡した20例を追加分析）。実験対象者は25～40歳の男性、全員が感染後2～4日で死亡。Q報告の感染実験は、経皮感染16例、経鼻感染5例の21例。実験対象者は23～40歳の男性、病状経過は急性、亜急性、亜慢性、慢性に分かれ、感染後4～45日で全員死亡。

4. 「A及びG報告」の病理所見

各症例毎に臓器別病理変化の特徴を記載（A報告は約410頁、G報告は約378頁）、典型例は病理変化をパステルカラーの多彩な色彩で記載している。